特集・台湾　台湾と日本を結ぶ“絆”

東日本大震災からの復旧、復興を目指す日本に対し、台湾からさまざまな形の支援が寄せられた。台湾の人々の震災への関心は高く、義援金を募る活動は震災発生直後から始まり、その額はこれまでに200億円を超えたと言われている。支援の動きは官民を問わず、日本の各種機関にあてた応援メッセージや物資の提供、復興支援を目的とした訪日旅行などに広がった。震災復興をきっかけとして日台を結ぶ〝絆〟が再確認された。

台湾から復興に厚い支援

東日本大震災　多額の義援金、訪問団も

震災発生直後の3月17、18日、台湾では複数のテレビ局が合同でチャリティ番組を放送した。馬英九総統が募金を呼びかけたほか、歌手のジュディ・オングさん、女優の林志玲さん、日本からはサッカー元日本代表の中田英寿さんらが出演。2日間で約26億円の義援金が集まり、その後も増え続けた。

5月に入ると、震災の影響で外国人旅行者が激減した北海道に、国会議長に相当する王金平・立法院長を団長とした訪問団など約300人がチャーター機で到着した。国会議員にあたる立法院委員や観光団体幹部などの訪問団44人と一般の観光客250人の一行で、観光などを通じて日本の復興にエールを送った。

6月には、3月18日の予定が震災で延期になっていた「日台観光サミット」が石川県金沢市で開かれた。日本と台湾の観光関係者約120人が参加した。台湾観光協会の周慶雄会長と日本観光振興協会の西田厚聰会長が、震災を乗り越えて相互交流人口を年間300万人にすることを確認。台湾の賴瑟珍観光局長、観光庁の溝畑宏長官も駆けつけた。

観光サミットに合わせて来日した台湾の代表団は、被害が大きかった岩手、宮城、福島の各県をはじめ、東京都内の観光関係者約120人が参加した。台湾観光協会の周慶雄会長と日本観光振興協会の西田厚聰会長が、震災を乗り越えて相互交流人口を年間300万人にすることを確認した。このプログラムでは、台湾と日本を代表するそれぞれの窓口機関も復興に関する具体策を打ち出した。台湾の亜東関係協会と日本の交流協会は7月14日、「絆（厚重情誼）」イニシアティブを締結。台湾からの各種支援を「台湾と日本の心と心の絆を改めて認識させるもの」と位置づけ、「掛け替えのない絆により日本の復興をさらに力強く推し進める」とした。

イニシアティブには台湾側の取り組みとして、日本各地に観光ミッションを送るなど訪日旅行の回復への努力をはじめ、日本の農産品に対する規制や制限の緩和、青少年や学術、地方間の交流促進などが盛り込まれた。

震災復興を祈念した東北の夏祭りにも台湾から観光代表団を送った。8月1日に盛岡さんさ祭り（岩手県）、3日には山形花笠まつり（山形県）、6日には福島わらじ祭り（福島県）に参加。獅子舞などの芸能を披露した。各祭りでは台湾の民俗芸能グループ「傳練堂綜藝團」が、五穀豊穣や平穏無事を祈念して舞う「舞龍舞獅」（龍の舞、獅子舞）を披露した。

台湾への感謝の気持ちを伝えようと、または、より緊密な協力関係を築こうと、日本からも中央、地方を問わず議員や行政担当者、民間の企業関係者の台湾訪問が相次いでいる。一般観光客の中にも同じ気持ちを持っている人は多いはずだ。日台の新たな絆が結ばれることだろう。

6月に金沢市で開かれた日台観光サミット

保存・活用される統治時代の建造物

建築に日台の歴史息づく

台湾には日本統治時代（1895～1945年）に建設された建造物が多数残っている。建築様式も欧風、日本風、和洋折衷とさまざまで、赤煉瓦や石材、黒瓦、木材などが多用されている。当時の雰囲気を残しながら修復、保存され、行政機関の施設や文化施設として現在も利用されている。近年では歴史や文化を見直し、統治時代の建造物を文化スペースやレストランなどに再利用する気運も高まっている。

特に台北市中心部には統治時代の建造物が集中し、散策には最適だ。一般参観日が指定されている施設もあるが、外観だけでも楽しめる建造物、日本語ボランティアガイドがいる建造物もあり、市内ツアーなどに組み込まれている。

台北にある日本統治時代に建設された建造物から注目のスポットを紹介する。

華山1914文創園区＝華山は、統治時代に「樺山町」と呼ばれていたことに由来する。園内の建造物や施設は、1914年に創業し、当時台湾で最大の製酒工場だった「芳醸社」のものが生かされている。現在は各種ショップやレストラン、ステージ、緑地など複合的な機能を持つ公園。さまざまな展示会やアートイベントが行われている。

紅楼劇場＝若者の街、西門町にある。ユニークな正八角形の赤レンガ造りで、街のランドマーク。統治時代は公設市場だったが、現在は2階が劇場、1階は文物資料の展示場と喫茶店になっている。

総統府、台北賓館＝総統府は、統治時代には台湾総督府の庁舎だった。第2次世界大戦末期に空襲で損傷を受けたが、1946年に再建された。5階建ての建造物を中心に、中央塔は11階に相当する高さがある。外観はコンクリートと御影石で飾られ、赤と白のコントラストが美しい。

台北賓館はかつての台湾総督官邸で、迎賓館としても使われ、皇太子時代の昭和天皇が訪れたこともある。ローマ・ギリシャ様式の円柱などを多用したバロック風の2階建て。戦後も迎賓館として多くの要人を迎え入れている。

総統府、台北賓館の一般参観日は、総統府ホームページ（http://www.president.gov.tw/）に掲載（中文、英文）されている。

イベントでにぎわう華山1914文創園区

西門町の紅楼劇場

一般開放された青田七六

かつて台湾総督官邸だった台北賓館

一滴水紀念館

青田七六＝台北市青田町7巷6号にある。統治時代は台北帝国大学の教授の宿舎だった。戦後は台湾大学の地質学教授が暮らした。荒廃が進んでいたが、和洋折衷のモダンな造りだったことから修復され、今年6月から見学施設、カフェとして一般開放されている。

台北市内にある日本統治時代の建造物

現在の名称	日本統治時代の名称	建造年	設計者
台北賓館	台湾総督官邸	1901年	福田東吾、野村一郎、森山松之助
監察院	台北州庁	1915年	森山松之助
国立台湾博物館	台湾総督府博物館	1915年	野村一郎
総統府	台湾総督府	1919年	長野宇平治、森山松之助
台湾菸酒公司	専売局	1922年	森山松之助
司法大廈	台北地方裁判所	1934年	井手薫
中山堂	台北公会堂	1936年	井手薫
紅楼劇場	公設市場	1908年	近藤十郎
華山1914文創園区	芳醸社工場	1914年	—
台北当代芸術館	建成小学校	1921年	近藤十郎

福井の古民家を日台交流で移築

一滴水紀念館

新竹市淡水にある和平公園内の「一滴水紀念館」は、福井県おおい町から移築された古民家だ。作家、水上勉氏の父で、大工の棟梁だった水上覚治氏が1915年に建てた家屋。日本庭園なども整備され、今年から一般公開されている。

台湾中部大地震の際、兵庫県神戸市を拠点にするボランティアグループが、阪神・淡路大震災時の台湾からの支援に対する感謝の思いを込め、被災地入りして支援活動を展開した。こうした日台の助け合いの証として古民家の移築が実現したという。

親日感情が育まれた背景は

台湾と日本をテーマにした著作を多数発表しているノンフィクション作家、平野久美子氏がこのほど、ふくしま台湾友好協会（会長＝瀬谷俊雄・福島商工会議所会頭）の招きで協会会員らを前に講演した。平野氏は、震災に際して台湾から多額の義援金が寄せられた背景、親日感情が育まれた理由を近現代史からひも解いた。

人口は日本の6分の1、平均年収は約半分という台湾から贈られた義援金は約200億円。台湾には親日的な人が多いと感じていた日本人でさえ驚かされた。台湾中部大地震（1999年）に際して日本が送った救援隊の懸命の救出活動などに対する感謝の気持ちとも言われているが、「それだけではない」と平野氏は指摘する。

「それを解くかぎは、日本と台湾が共有する近現代史にある。つまり50年間に及んだ日本統治時代に培われた日本との心の絆（きずな）にある。その絆を大切にし、今に伝えてきた主役は、統治時代に日本の教育を受けた世代、『日本語世代』とも『トオサン世代』とも呼ばれる人たちだ」。

「トオサン」は、漢字で表記すると「多桑」で、日本語の「父さん」が転化し、父親を指す言葉として定着した。日本の敗戦時に小学高学年だった世代が今、80歳前後になっている。

平野久美子氏

「トオサン世代」が基盤築く

ノンフィクション作家の平野久美子氏

「冷静に、真しに歴史を語り継ぐ」

「日本語を流暢に話し、日本の精神や美徳を学んだトオサン世代が親日の基盤を築いてくれた。自分には日本精神があると語る方もいる。もちろんこの世代のすべての皆さんが親日的なわけではない。非常に複雑な思いを抱え、日本に言いたいこともある。しかし、台湾と日本の間に何が起こったのか、良かったことも、悪かったことも、冷静に、真摯に次の世代に伝えてくれたおかげ」。

日本の敗戦で統治時代が終わると教育も、言葉も変わったが、トオサン世代は子や孫に日本への思いを綿綿と伝えた。台湾は90年代に入って急速な経済発展を遂げたが、その思いは日本のアニメやファッションを日常的に楽しむ今の10代、20代の若者たちへとすそ野を広げていったと言う。

これに対して一方の日本人は台湾にどう向き合ってきたのか。

「私たち日本人は、トオサン世代が大切にしてきた台湾と日本との間にある絆を知ろうとしてこなかった。トオサン世代は、歴史の生き証人として、日本人にも語りかけてくれている」。

最近の意識調査では日本人の台湾に対する好感情も大きく上昇している。義援金への感謝もあるとみられるが、台湾人の親日感情に追いついてきた感がある。日台関係をさらに発展させるには。

「トオサン世代がいなくなった後、台湾の人々とどう付き合っていくのか。それを考える時、トオサン世代がいかにアイデンティティを獲得し、どう広めたのか。それを日本人が知ろうという姿勢がまず必要ではないか」。

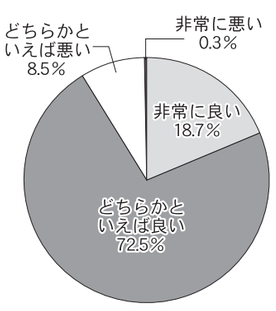
日台関係は「良好」9割

台北駐日経済文化代表処

注力すべき交流分野「観光」がトップ

台北駐日経済文化代表処はこのほど、日本人の台湾に関する意識調査の結果をまとめた。「日台関係が良好だ」との回答は全体の9割に達し、「台湾を身近に感じる」も7割近かった。日本と台湾が特に力を入れるべき交流分野では、「観光」が「経済」や「文化」を上回った。

調査は今年5月に電話とインターネットによって実施した。回答者数は全国の男女1千人。



日台関係については、「どちらかと言えば良い」が72・5%、「非常に良い」が18・7%。合わせて91・2%が良好だと回答し、前回調査（09年）と比較して10・8ポイント上昇した。

台湾への親近感では、「どちらかと言えば身近に感じる」が47・6%、「とても身近に感じる」が19・3%だった。合わせて66・9%で、前回より10・8ポイント上昇した。

「台湾を信頼しているか」では、「多少は信頼している」が64・0%、「非常に信頼している」が20・2%。合わせて84・2%となり、前回より19・5ポイントも上昇した。

日台が特に力を入れるべき交流分野を複数回答で聞くと、最多は観光で74・2%に上った。以下、経済が60・0%、文化が59・8%、青少年交流が40・8%だった。

台湾への渡航経験では、80・8%が一度も行ったことがなかったが、「ぜひ行きたい」が25・3%、「機会があれば行きたい」が53・0%。渡航の意向を示した人は合わせて78・3%で、前回より17・1ポイントも上昇した。

JATA旅博に出展

茶芸体験などのイベントも

台湾観光協会は、10月1、2日に東京・有明の東京ビッグサイトで開かれる旅行見本市「JATA旅博2011」にブースを出展する。台湾から観光施設や宿泊施設、観光行政の関係者など約100人が来日。台湾観光の魅力を趣向をこらした企画で紹介する。

台湾ブースでは、各地の観光情報の提供のほか、台湾の銘茶が試飲できる茶芸体験、台湾の伝統的な芸能である切絵のパフォーマンスなどのイベントを行う。ステージでは台湾中部の日月潭から先住民族の舞踊なども披露する予定。

往復航空券や宿泊券、台湾グッズが当たる参加型のゲーム大会や台湾観光大使のアイドルグループ、飛輪海のサプライズイベントも用意している。

また、東日本大震災からの復興に向け、日本を激励しようと、台湾から寄せられた応援メッセージも発信する予定。

併せて、9月28日にJR上野駅中央改札口前、29日に横浜クイーンズスクエア1階で観光PRイベントが開かれる。伝統芸能の披露やクイズなども行われる。

台北旅行博は11月11日開幕

台湾最大の旅行見本市「台北国際旅行博2011」（ITF）は11月11～14日、台北市の台北世界貿易センター展覧館で開かれる。主催の台湾観光協会では多くの来場を呼びかけている。

訪台日本人旅行者数が回復

8月は前年比3割増

1～8月累計の訪台日本人旅行者数は、台湾観光局の統計によると、前年同期比15・2%増の80万3千人だった。東日本大震災を受けて一時伸び率は鈍ったが、8月は前年同月比27・8%増の11万8千人となり、8月単月では過去最高を記録した。

今年に入ってからの訪台日本人旅行者数は、前年同月に比べて1月が16・7%増、2月が42・8%増と順調だったが、震災の発生した3月は1・1%増にとどまった。しかし、ゴールデンウイークの旅行需要がある4月には8・5%増に回復。5月は2・1%増だったものの、6月には9・8%増、7月は19・7%増となっていた。

観光目的の旅行者だけをとらえた数値では、1～7月累計が前年同期比19・8%増の45万5千人。7月は前年同月比32・9%増の6万1千人と大幅な伸びを示した。

Taiwan
THE HEART OF ASIA

台湾観光局
http://jp.taiwan.net.tw
2010-2011 台日観光交流年
TAIWAN-JAPAN Tourism Exchange Year

台湾観光協会

東京事務所
〒105—0003
東京都港区西新橋1丁目5—8川手ビル3F
電話03・3501・3591　FAX03・3501・3586

大阪事務所
〒530—0047
大阪府大阪市北区西天満4—14—3—6F
電話06・6316・7491　FAX06・6316・7398

〝百年夫婦円満〟特典プレゼント
特別企画が始動

台湾観光局は、100年にちなみ、夫婦の年齢が合計で100歳を超える旅行者（または夫婦を含む1組の合計年齢が100歳以上）を対象に8,000円相当（100米ドル）のプレゼント特典を用意。特典は協賛旅行会社の企画するツアーに申し込んだ方が対象。ツアーは年末までに順次案内する。

ウエルカムプレゼント
キャンペーン実施中

台湾観光局は、台湾を訪れる日本人旅行者に菓子などの特産品をプレゼント中。事前に申請して入手した引換券により台湾出国の際に指定免税店で商品と引き換えられる。

◇特別企画、キャンペーンの詳細は、台湾観光協会http://www.go-taiwan.netまで